

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1105 号	氏名	山崎 真紀子
学位審査委員	主 査	酒井 英樹	
	副 査	吉浦 孝一郎	
	副 査	室田 浩之	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 子宮頸がんの発症に発癌性ヒトパピローマウイルス（HPV）持続感染の関与が明らかとなり、早期発見にはHPV検査と子宮頸部細胞診との併用が有用であるとの報告がある。本研究は、子宮頸がん検診受診率の低い地域において、受診率向上に向けた自己採取HPV検査導入の有効性について検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 五島市における子宮頸がん検診未受診者を対象として、受診勧奨のみを行う群と受診勧奨に加え自己採取HPV検査キットを送付する群とに無作為に割り付け、検診受診率、HPV陽性者数、子宮頸部細胞診の結果およびHPV検査キットの有害事象を解析したもので、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、自己採取HPV検査同意群は非同意群に比べ検診受診率が高いこと、自己採取HPV検査群は受診勧奨単独群に比べ検診受診率が高いこと、自己採取HPV検査群からのみ上皮内癌が診断されたこと、およびHPV検査キットの安全性が確認されたことから、子宮頸がん検診における自己採取HPV検査の有用性が示唆された。</p> <p>以上のように、本論文は子宮頸がん検診の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			